

1 2025年度の目標

(1) 中期的目標（「第三期中期計画」より）

- ① 入学定員の確保を目指し、着実に入学者数を増加させる。
- ② 受験者層を拡充するために、「リーダーシップの共立®」を核とした戦略的な広報を行う。
- ③ 奨学金制度の活用・検証を行い、学力、スポーツ芸術等の資質に優れた生徒を確保する。
- ④ 中学校において、基礎学力の定着に必要な学習習慣の定着と学習意欲の向上を図る。
- ⑤ 高等学校において、各コースのカリキュラムの有効性を生徒の成績から検証し必要な改善を図る。
- ⑥ 「共立探究」の活動の充実を図る。
- ⑦ ゼミや講習、補講の充実を図る。
- ⑧ 心身の健全な成長に向けて適切な支援を行う。
- ⑨ 生徒会、委員会、クラブ活動等において、生徒の自主性を引き出すとともに一人一人の能力を発揮する機会を経験させ、自己肯定感を高める。
- ⑩ 共立女子大学短期大学等、大学との連携を強化する。
- ⑪ 生徒・保護者の本校に対する満足度を向上させる。
- ⑫ 特色ある教育活動の展開に必要な教職員の適正配置と資質向上を図る。
- ⑬ 八王子キャンパスの施設を整備し有効活用する。

2 取組の結果

(1) 学習指導

- ・ 各教員は自身の授業のあり方を検証し「分かった・できた」を実感する授業作りに取り組んだ。授業50分の中で、基礎・基本を身に付ける「音読」や「発声」、「小テスト」による知識や理解の定着、演習や練習の時間を確保して実践力や応用力の向上に取り組んだ。
今後も、生徒が授業を受けることの充実感の向上と、音読やまとめ・発表の場面において生徒がより積極的な関与に向け粘り強く取り組む。
- ・ BYODを活用した学習指導として、教材提示や意見集約、資料作成など、単元の内容や指導上の有効性を考慮しながら実施している。今後も必要に応じてICTを利活用し、効果的な教科指導を実施する。
ICT機器の活用が多くの教員に広く浸透している現状並びに、生成AI等の利活用の効果や課題に対応していくため、本校のガイドラインを改訂し使用に当たり留意点を踏まえられるよう体制作りを行った。
- ・ 各教科が実施する授業内容については、引き続き、年間授業計画に基づき実施することの徹底並びに専任教員と非常勤講師間の連携強化を行うなど、組織的な教科指導となるよう取り組む。
- ・ 授業準備や課題、演習を目的とした自学自習を習慣化すべく、地下フロアのレイアウトや自販機設置など環境面の整備を行った。生徒が、自学自習を平日19時迄できるよう体制を構築したところ、数はまだ少ないが恒常的に利用する生徒がみられた。
今後は、生徒が学習と学校行事や部活動との両立に向けて活用するよう促していく。
- ・ 今年度、高校生を中心に長期休業中（夏・冬・春）に自習室において丸一日勉強漬けにする取組（「缶詰学習」）を実施し、のべ50人程度の生徒が参加した。
- ・ 模試結果を基にした学力推移の把握や生徒の進路に関する個別相談は学年毎に実施した。今後、学力推移の把握並びに弱点分野を補強する教科指導を学校全体で取り組めるよう、ケース会議の開催や教科指導の充実に取り組む。
- ・ 長期休業中のゼミについては、夏季86講座、冬季5講座を開講し、のべ270人の生徒が参加した。夏期休暇中のゼミは2024年度に比べ1日平均4.5時間増加し、より多くの生徒の要望に応える講習を実施した。基礎学力の定着から大学入試問題への対応、発展的な内容の取扱など更なる充実を図る。

(2) 進路指導

- ・ 大学受験において、年内入試で合格を得た3年生は在籍の約9割で大学側の年内入試への移行と受験者の早期に進路決定を希望する傾向が見られた。高校3年生の終盤まで学力定着に向けた取組並びに進路決定者への特別授業の更なる充実に取り組む必要がある。
- ・ 高校1年生を対象に弁護士や女性経営者による講演や高校2年生を対象とした女性管理職による講演、中央大学・津田塾大学・北里大学による出張講義を実施し生徒の進路意識を高めることができた。
- ・ 共立女子大学・短期大学の講義に共立コース3年生27名が、聴講や特別授業に年間を通して取り組み、2年生は二高卒業生による大学案内や大学職員によるガイダンス・講義の見学に取り組むなど、連携関係を深めた。次年度に向け、受講可能な科目や単位認定範囲のさらなる拡大に向け、共立女子大学・短期大学と継続的な協議を行った。
同大学への現役合格者は短期大学を含め83名を数えた。
- ・ 学力推移調査や模擬試験結果については、3学年担任団において定点観測を行うとともに生徒への個別相談に備えた。今後、結果分析を踏まえた教科指導や弱点補強などに取り組む。

(3) 生活指導

- ・ 体育大会における種目決定や運営、学校説明会やオープンキャンパスにおける企画や説明など、生徒が主体となる機会を拡充したことで、生徒自身の成長に加え周囲へも好影響を与えるなどの効果があった。白亜祭においても、生徒会や実行委員会が中心となって学校全体を動かした。
- ・ 生徒の学校外でのマナー向上に資するため、登校時のスクールバスターミナル付近や生徒玄関での声掛けを定期的に行うとともに、その状況を職員間で共有し、マナー向上に向けた指導を継続した。今年度、全ての二中高生が挨拶できるよう教員が一体となって挨拶運動に取り組んだ。
- ・ SNS等の利用に関しては、生徒が被害者や加害者とならないよう、各学期の終業式やホームルームの時間を活用して、その危険性や正しい利用法について説明した。
教員による入学オリエンテーション時の指導や東京都の啓発事業「ファミリーeルール」の講演会を実施した。警視庁との連携を通じて情報モラルに関する最新事例を収集し、生徒および保護者に対して迅速かつ適切な情報発信を行った。
- ・ 生徒会役員が全校生徒の意見をまとめ、職員会議において校則や施設環境の改善案の提案を行うなど、生徒の声を学校運営に反映させる活動を教職員が支援した。併せて、生徒会役員会と各委員会による会議を毎週開催することで、生徒主体の自治活動を活性化させた。

(4) 保健関係

- ・ 専任教諭を対象にアナフィラキシー対応のための講習を実施し、エピペンの接種を実際に体験し、事故発生時の救急体制の再確認を行った。外部会議や特別な配慮が必要な生徒に対する支援に関する外部研修会に参加し、他校との情報交換を行った。
- ・ 特別支援委員会の定例会を毎週開催し、必要な生徒の情報を共有し支援につなげた。また、収集した情報を整理し、迅速かつ適切な生徒支援ができる体制を構築した。
- ・ 生徒とカウンセラー間の心理的な距離感を縮めるため、カウンセラーとともに学ぶ授業を実施した。また、カウンセラールームの開室予定表を教室に掲示することで、誰でも相談しやすい環境を構築した。

(5) 広報活動・入学者選抜

- ・ 今年度の入学試験に関しては、多摩地域の小中学生が減少する中、中学受験においては、実志願者が80人と18人減少したが、入学者数は昨年度と同数の45人となり、本校を第一志望とする生徒の割合を多くすることができた。高校受験では推薦選抜において昨年より16人多い92人の志願者があった。
- ・ 年間を通して、入試広報部を中心に公立中学校や塾訪問、各種媒体等を通じて本校の学校情報や入試情報、特徴についてアピールした。特に、本校第一志望層の拡大に向け、本校の魅力、生徒の声や様子の発信に努めた。
- ・ 今年度結成した在校生広報チーム「2KRT」が、オープンキャンパス等において、キャンパス案内やトークセッションなどにおいて主体的に取り組めるよう指導体制を構築した。また、生徒のホスピタリティ意識の向上を兼ねて「ディズニー研修」を実施し、「おもてなし」や「コミュニケーション」技術の向上を図った

- ・ 駅サイネージ、ランディングページ制作など新たな媒体を通じた情報発信を強化するとともに、各種媒体で積極的な広報活動を展開した。
- ・ ホームページ等の媒体を活用し、月当たり 15 回程度の割合で日常の教育活動等の情報を発信し、本校の教育理念やブランド等が受験生や保護者へ伝わるように努めた。2026 年度はホームページの全面リニューアルを行うとともに、SNS においても生徒目線で本校の魅力が発信できるよう既存の LINE や Instagram に加え、在校生広報チーム「2KRT」が主体となって Instagram 及び TikTok を運用し、生徒の視点から教育活動や課外活動の様子を発信した。

(6) 中学校

- ・ 全学年が国語や数学、英語の「基礎・基本」の徹底に向け、毎日の朝学習や 7 限目の補習を活用した取組を行った。
- ・ 中学 3 年の企業 80 社と連携した職場体験では、生徒自らが体験先企業に連絡をとり実習内容等の調整を行った上で訪問するなど主体的に取り組ませることができた。
- ・ 本校において作成した「共立リーダーシップ®」指導資料を活用し、職員間で共有するとともに生徒向け説明会を行い理解・啓発を行った。今後、学校行事や広報活動においてリーダーシップ教育を実施し、生徒が身につく資質を意識させながら教育を展開する。

(7) 高等学校

- ・ 各部門や学年において、完成した各コースのカリキュラムを検証した。今後、コース選択の幅を広げる等の改善を図った。
- ・ 共立進学コースでは、KWU プレカレッジによる大学の講義聴講や、二高卒業生や大学職員による大学ガイダンスを行い、生徒の希望進路に合致する学部や学科選択に資する情報を提供した。
- ・ 英語の活用能力を高めるため、授業の大半の時間を能動的に取り組み「聞く、話す、読む、書く」の 4 技能をバランスよく育成した。
- ・ 新しい学力観（コミュニケーション力・協働性・創造性・批判的思考力などの育成に向け、総合的な探究の時間を生徒自身が興味を持てるように工夫して取り組んだ。
- ・ 課題解決型の学びなどを通して「共立リーダーシップ®」の理解・啓発を行い、一人一人が場面に応じた自分らしいリーダーシップを発揮する。
- ・ 本校において作成した「共立リーダーシップ®」指導資料を活用し、職員間で共有するとともに生徒向け説明会を行い理解・啓発を行った。今後、学校行事や広報活動においてリーダーシップ教育を実施し、生徒が身につく資質を意識させながら教育を展開する。（再掲）

(8) 英語教育、英語コース

- ・ 4 技能統合型授業のさらなる深化を目指し、東京学芸大学より有識者を招聘し「本学オリジナルの英語教育グランドデザインの完成」をテーマに学内研修を継続して実施した。
- ・ 海外研修に関しては、夏季のニュージーランド研修(13 日間)に生徒 19 人が参加、高校 1 年英語コースの生徒を中心にターム留学(3 学期)には生徒 13 人が参加した。また、受け入れに関しては、ニュージーランドワイヒカレッジ研修生 11 人が本校生徒の家庭でのホームステイ、本校での授業を経験した。
これらの国際交流活動を通してお互いの国の文化や価値観を共有することができた。さらに、それぞれの活動を最大限に活かすことができるよう、事前研修や保護者会を複数回実施するとともに、他学年の英語コース生徒を招いた留学報告会を開催し、成果等の情報を共有した。
- ・ 複数の外部業者による海外進学説明会を実施したほか、生徒・保護者対象の「海外大学進学協定校推薦制度 (UPAS)」について説明会を開催するなど、海外大学進学の実現を支援するための情報を提供した。

(9) 事務室

- ・ 教員と連携して計画的な予算執行を行うとともに緊急を要する案件には、学園と調整しながら校内を調整して予算を確保し教育活動の維持・充実に努めた。なお、次年度へ向け、教育活動の更なる充実に向け新規事業対応する予算を確保した。
- ・ 学校広報に関して、企画・運営において、主体的に参画し、企画の提案および実施に寄与した。
- ・ 事務室内スタッフの打合せを毎週実施し、校内の教育活動の進捗を把握するとともに所管事業の実施に際して室員が協力し、業務のスクラップ&ビルドを実行するなどして効率化を図った。

- ・ 業務の執行に際しては、PDCA サイクルを活用しより結果につながる業務を遂行した。

(10) 職員研修

- ・ 生徒の緊急時対応に関する研修や救命救急講習等、外部講師を招き研修会を実施した。
- ・ 教員の専門性やスキル向上のため、授業研究部会と二中高の将来を考える部会を立ち上げ、有志による定期的な勉強会を実施し、問題点の抽出や議論が交わされた。
- ・ 共立リーダーシップの理解、教育活動との関連付けや身に付ける資質や能力の可視化等について、指導資料をもとに理解を深めた。

3 本年度の重点目標の達成度<数値目標>

- | | | | | | |
|-----------------------------------|-----------|------------|-----------------------------|------------------|------------------|
| (1) 国公立・難関私立大学合格者 | 5人 | 2.6% | (目標 20%38人・昨年 6人) | | |
| (2) GMARCH・医療系合格者数 | 36人 | 18.8% | (目標 30%57人・昨年 39人 GMARCHのみ) | | |
| (3) 英語検定 | 中学 | 3級 | 49% | (目標 100%・昨年 69%) | |
| | 高校 | 英語コース | 準1級 | 40% | (目標 100%・昨年 23%) |
| | | 特進コース | 2級 | 76% | (目標 100%・昨年 77%) |
| | | 総合進学共立コース | 準2級 | 67% | (目標 100%・昨年 64%) |
| (4) 共立女子大学 | 70人 | (入学者 | 昨年 73人) | | |
| 共立女子短期大学 | 2人 | (入学者 | 昨年 2人) | | |
| (5) 生徒・保護者の本校への満足度(目標値はいずれも 100%) | | | | | |
| 「学力を伸ばす指導をしている」 | 生徒 | 78.2% | (74.5%)・保護者 76.2%(76.0%) | | |
| 「この学校に入学して良かった」 | 生徒 | 76.2% | (74.4%)・保護者 90.4%(90.2%) | | |
| (6) 入学試験の募集状況 | | | | | |
| 中学校 | 実出願者数 80人 | (目標 230人)、 | 入学者数 45人(目標 120人) | | |
| 高校 | | | 入学者数 167人(目標 240人) | | |

※ 次年度に向けた総括

① 進路指導

大学入学試験実施が年内入試にシフトしていく中で、最後まであきらめずに取り組む意識を持たせる指導や総合型選抜における受験指導体制の更なる充実が必要である。次年度、改めて進路第一希望の実現に向け指導体制や生徒の学力の定点観測に基づく指導体制を構築していく。

共立女子大学短期大学へは安定した進学実績を残しており、高校在学中に入学する学科等に相応しい資質能力を担保する教育を充実させていく。

② 資格取得

授業等を通じて生徒の学力を把握し、次の検定級への挑戦を促した。今後も、夏季海外研修や来日した姉妹校生徒との交流等、英語力向上に向けた動機づけの機会を設け、次の検定級への挑戦を促していく。さらに、サマーゼミでの目標級別講座の開講や、1次試験合格者へのネイティブ教員による面接練習を実施するなどして資格取得の意義や認識、受験意欲を高めていく。

③ 学校評価

教員が、管理職による授業観察をもとに示された授業改善の視点を共有し、継続的な授業評価・改善の質の担保に努めた。その結果、学校評価に関わる生徒アンケートによる「学力を伸ばすよう熱心に指導している」の設問について、「そう思う」以上が 78.2%であった。

保護者会におけるクラスの状況などの報告や毎月発行の学年通信等を通じて、生徒の日常や行事への取組姿勢を積極的に説明した。その結果、学校評価に関わる保護者アンケートによる「わが子をこの学校に入学させて良かった」の設問について、「そう思う」以上が 90.4%であった。

授業評価結果や学校評価結果の視点を教職員に示して改善を促すとともに、保護者会等の機会において説明するなどして学校の取組状況を共有していく。

④ 募集活動

中学入試において、多摩地区の特性を踏まえて入試制度の検証を行い、適性検査型の時間を変更す

るなどの改善を実施した。

オープンキャンパス等の校内イベントにおいて、在校生広報チーム「2KRT」が主体となって共立女子第二中学校の魅力をアピールし、塾訪問も継続して実施した。

中学校、高等学校ともに、本校の教育活動の一つ一つを丁寧に実施するとともに、本校生徒の成長の様子や学校生活の充実度などを発信し、地域から信頼される学校作りに努める。

また、キャンパスの魅力を受験生へ直接伝える貴重な機会として、部活公式戦会場や模試会場への施設貸出を行った。さらに、小学生を対象に八王子市教育委員会後援により理科体験教室を開催した。併せて、公立中学校への講堂貸出についての検討を行った。